

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：44417

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20042

研究課題名（和文）米国開拓民話と女性

研究課題名（英文）American Folklore and Women on the Frontier

研究代表者

山本 祐子（Yamamoto, Yuko）

関西外国語大学短期大学部・英米語学科・准教授

研究者番号：80424969

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近年まで未出版であったアメリカ民話を発掘あるいは復古して、アメリカ文学研究、特にAmerican humorの解釈と分析に活用した。American humorは、19世紀の口語方言や習俗あるいは冗談を多分に含んでいるため、現代人、特に日本人には理解不能の表現が散見され、本格的な研究はなされてこなかった。しかし民話とそれに付随する民俗学的史料を参照することで、解釈を進め、資料化することに成功した。この研究成果をもとに、民話という新たな視野から文学作品を考察するという道筋を提示し、論文を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で扱うAmerican humorは、アメリカ独自の文学ジャンルとして注目されてきたが、地域性の強さから、難解とされ、研究が進められてこなかった。しかし、民話という民俗学的史料を参照することで、解説不能であった19世紀の表現や冗談、あるいは暗喩の解釈に成功した。つまり文学研究において民話は看過されてきたが、作品の解釈には欠かせない貴重な情報源だったことが判明した。American humorがリアリズム文学へと発展していくことなどを考えれば、民話を用いたアメリカ文学研究という道筋を提じた本研究の意義は大きい。

研究成果の概要（英文）： This project has researched 19th-century folktales to compile "Mark Twain's Annotated Tales and Sketches: Comic Journalism and Folklore," an American humor collection with annotations derived from unpublished folklore sources and their studies. Enormous numbers of American humor were published or compiled in a book but scarcely discussed or analyzed for its difficulty reading obsolete, therefore unknown, phrases, spoken languages or dialects, and jokes they contained. The folktales or what is now called "folklore" by folklorists are the last piece lacking in the American literature study. Given that American humor was the predecessor of 19th-century realism, this book and this literature study with "folklore" in view will contribute to the new criticism of American literature tradition.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学 開拓期 民話 アメリカ開拓期のジャーナリズム マーク・トウェイン

### 1. 研究開始当初の背景

「アメリカ人とは何か」という問いは、長年アメリカ研究の命題とされてきた。この問いに答えるべく、米国内外の研究者がことさら注目したのは、19 世紀前半の合衆国建設期（開拓期）であり、その時代を支えた開拓民たちであった。アメリカ人像の原型が、この時期に、つまり開拓民を元に、完成したことを考えると、順当な取り組みであろう。

だが開拓期を中心としたアメリカ人研究には、致命的に欠落しているものが二つあった。女性と戦争である。「開拓民」あるいは「アメリカ人の原型」が表象しているのは、いつだって男性だ。つまり「アメリカ人とは何か」と問うとき、「アメリカ人男性とは何か」と問うているのである。また開拓民像（正確には男性の開拓民像）は理想化され、不屈の精神をもって米国を切り開いた英雄として、肯定的な側面だけが取り上げられる風潮が続いた。その結果、開拓期の領土争いや他国への侵略戦争、あるいはそれらを激化させた開拓民の暴力性と貧困への詳細な考察が一切なされてこなかったのである。これら開拓民の暗部が、意識的あるいは無意識的に黙殺され続けた背景には、国威高揚を求める為政者側の意図が反映されていたのかもしれない。

だが民話は違う。19 世紀前半の開拓民が仲間内で楽しむための娯楽として発祥したため、為政者の意向などとは無縁だ。外面を繕う必要もないことから、彼らの赤裸々な日常が語られている。いわば民話は開拓期の縮図であり、そこには女性も男性も、暴力も犯罪も、余すことなく記録されていた。本研究では、従来と異なる現実の「アメリカ人とは何か」を問うものであり、なかでも「アメリカ人女性とは何か」という革新的な問いかけをし、その答えを開拓民民話に求めるものである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、先に挙げた問いに答えるべく、未発掘・未発表の開拓民民話を収集し、研究したうえで、史料価値の高い作品だけを厳選して、それらに注釈を付した、民話史料集を編纂することである。これは民話復古もあたり、米国内においてすら類をみない試みとなる。

というのも開拓民の民話は、低俗と軽んじられていたことから、現在では殆ど消滅していて、Davy Crockett や Paul Bunyan などの神話化された英雄伝説が継承されるにとどまっている。しかも、現代に残る開拓期の英雄たちは全て男性である。また民話といえば、黒人や Native American あるいはラテンアメリカ起源の口承話が混在・混同されている状況にある。

ヨーロッパ系開拓民の民話に限定し、しかも女性を扱った、本格的な調査は、本研究が初めてとなるだろう。本研究で扱うのは、19 世紀前半の合衆国建設期に、数少ない娯楽として、ヨーロッパ系の開拓民のあいだで広まった口承話およびその出版物である。民話の殆どが笑い話で、紙面の埋め草として週刊誌や新聞に取り上げられるようになると、新聞記者たちは再話だけでなく、民話を自己流に書き直し、あるいは創作して、一世を風靡する。comic journalism というサブカルチャーながら文学の一ジャンルにまで発展させたのである。

しかしながら 19 世紀における米国東部の文学界（当時の文学的権威であり知識階級）は、民話とその後身である comic journalism を低俗な文学として軽んじる態度を崩さなかった。アラビア文学界は『千夜一夜物語』を卑近として長らく冷遇していたことは知られている。しかし米国の文学界は、自国の民話を、卑近というよりは、むしろ異質と受け取り、拒否感を示したのである。開拓地では、ヨーロッパ伝統と文明から切り離された過酷な気候風土のなか、言語やユーモア感覚を含め、全く新しい独自の文化が醸成されていたのだ。それが、民話を介して東部の都市部に伝えられると、想像を絶する世界に、未知なるものとの遭遇に近い衝撃を与えたわけだ。

初公開となる日本においても、開拓期の民話は斬新に映るだろう。間違いなく米国の独自性は開拓期に形成されたものであり、それを伝える開拓民民話の重要性は増している。現在なお東部の文学権威が偏重され、地方の民間文学である開拓民民話の研究が手薄だ。しかも、現代においてさえ民話研究で扱われるのは男性ばかりである。その手落ちの状況に風穴を開けるという意味でも、本研究の意義は極めて大きい。

### 3. 研究の方法

昨今の米国内でも、開拓期を理想化するのではなく、事実を掘り起こし、米国人の過去を客観的に捉え直そうとする機運が高まってきている。それに呼応して、埋没していた建国期の文書の発掘・保全が進み、民話の収集も容易となった。特に本研究が民話収集の拠り所とするのが、National Digital Newspaper Project（アメリカ地方紙のオンラインアーカイブ）と Mark Twain Project が保有している膨大な新聞記事や未発表原稿である。

上記などのソースから、以下の 5 点を念頭に、20 から 30 編の民話を発掘・選定し、注釈を付す。1. Mark Twain が関わった新聞や地域に限定した民話の発掘・選定を行う。Twain 研究を長年続けてきたため、彼の周辺研究の蓄積があり、民話の背景や風俗を研究するうえで有利だからだ。また Twain 文学を民話から考察するというのは、画期的な試みであり、本研究後の課題とするため。2. 女性を中心に扱い、極めて希薄な女性研究に寄与する。3. 未発掘・未発表の民話を中心に扱い、新事実の発見に努める。4. 開拓民の風俗・習慣、時代背景および文学批評

の詳細な注釈を付し、アメリカ研究に貢献する。5．民話には当時の方言も多用されていることから、方言の注釈にも腐心し、アメリカ英語の発達過程を検証する。

以上を踏まえた開拓民民話史料集を出版し、開拓民を扱った論文を発表する。

#### 4．研究成果

注釈付き作品集『マーク・トウェインの初期作品資料集』を発行した。収録作品は、American humor というアメリカ独自の文学ジャンルとして知られてはいるが、日本では研究が進んでいない分野であった。なぜなら 19 世紀の口語方言や習俗あるいは冗談などが多分に利用され、その地域性の強さから、現代人、特に日本人には理解不能な部分も多く、難解とされたからだ。そのため、文学研究において American humor は看過されるか、過小評価される傾向があった。本研究では、民話という民俗学的史料を参照することで、これまで解読不能であった American humor の表現や冗談、あるいは暗喩の解読に成功し、先の資料集編纂に至った。つまり民話が、萌芽期のアメリカ文学の解釈と分析に欠かせないことが判明したのである。

例えば民話からは、戦争、女性の性、権力への抵抗、あるいは犯罪などの隠されてきた開拓地の過去を知ることができる。この貴重な情報を Mark Twain の *Adventures of Huckleberry Finn* といった文学作品の研究に生かすことで、革新的な文学解釈を提示し、論文にて発表することもできた。また本研究を進めるなかで、民話がアメリカ文学の萌芽期を支え、地方文学およびリアリズム文学の源泉となっていたことを発見する。民話からアメリカ文学伝統が生まれたとなれば、従来の文学史観の見直しが迫られる。今後引き続き、民話の発掘と、文学研究への活用を広げていきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山本祐子	4. 巻 117
2. 論文標題 「Adventures of Huckelberry Finnにおける21世紀新解釈への提言ー米墨戦争とvolunteersの呪い」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『関西外国語大学 研究論集』	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18956/00008066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 祐子	4. 巻 119
2. 論文標題 folkloreとアメリカ文学研究 : Mark Twainの “ Jim Smiley and His Jumping Frog ” を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 研究論集	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) 10.18956/0002000151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている ( また、その予定である )	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

配布用資料集『マーク・トウェインの初期作品資料集: Comic Journalism & Folklore』の発行（全85ページ、発行元：春風社、オンライン掲示の予定）

## 6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------